

庄子 真岐 委員ご意見

仙台市観光戦略 2027 は、全体として体系的に整理された非常に優れた戦略だと評価いたします。特に 6 つの重点プロジェクトによって方向性を明確に示されており、中長期的な視点で取り組みを展開できると感じました。

一方で、「重点プロジェクト 5：持続可能な地域の形成」に関しては、戦術的な厚みがやや不足しているのではないかと思います。以下、3 点意見を申し上げます。

1) 楽しみながら地域貢献できる取り組みの充実

現在、訪日意向や再訪意向が高いのは Z 世代やミレニアル世代といった若年層です。彼らは顧客生涯価値が高く、今後の観光市場において重要なターゲット層となります。この世代の特徴は「サステナブル志向」であり、楽しみながら地域に貢献できる観光体験が求められています。

仙台市には豊富な体験型コンテンツが存在しますが、それらをサステナブルな視点で再構築・発信していくことが重要です。また、宿泊事業者等による環境配慮型の取り組みを「見える化」する仕組みも整備することで、旅行者の選択行動を後押しできます。

さらに、現時点ではオーバーツーリズムの問題は顕在化していませんが、だからこそ「望ましい観光行動」を発信することが有効だと思います。他自治体が推進する「ツーリストシップ」の導入も参考になるかと思います。こうした発信は、若年層に「仙台＝サステナブルな地域」という認識を持たせる効果も期待できます。

2) 教育旅行コンテンツの充実

コロナ禍において、官民が連携して教育旅行の受け入れを工夫した地域は、観光需要の落ち込みにも一定のレジリエンスを示しました。現在、宿泊料の高騰を背景に、関東・関西圏から近場の教育旅行が再び注目されています。仙台においても、地域文化やサステナブルな取り組みを学べる教育旅行コンテンツを整備することで、地域貢献型の体験と親和性を高めるとともに、インバウンドの若年層にも訴求できると考えます。

3) マーケティングデータの活用

戦略課題の一つに「周遊性の向上」が挙げられています。闇雲なデータ収集ではなく、周遊行動を実際に行っている観光客のデータを分析することで、何が周遊の動機づけになっているのか、具体的なヒントが得られると考えます。その分析結果を基にしたマーケティング施策は、限られた資源を効率的に活用する上でも有効です。

仙台市が「持続可能で次代につながる観光都市」としてさらに発展するために、本戦略にこれらの視点が加わることを期待しております。